

投下資本営業利益率 (ROIC) の3年平均が高い企業

順位	社名	業容	ROIC 3年平均	営業利益
1	and factory	漫画アプリの開発	56.8%	5.12 億円
2	エヌリンクス	営業代行	55.0	3.81
3	北の達人コーポレーション	健康食品・化粧品販売	54.6	18.61
4	ウエルビー	障害者の就労支援	52.5	14.95
5	エニグモ	個人輸入代行	52.1	21.43
6	リンクバル	イベントサイト運営	51.7	10.26
7	ダブルスタンダード	ビッグデータ解析	49.3	8.66
8	Mマーケット	業務用食材の企業間取引サイト	48.8	1.46
9	Orchestra Holdings	運用型広告	48.1	4.74
10	GameWith	スマホゲーム攻略サイト	47.2	8.08
11	スタジオアタオ	バッグ・財布販売	46.8	7.43
12	ピーバンドットコム	プリント基板通販	44.6	2.97
13	インソース	社会人研修	43.2	13.03
14	SKIYAKI	ファンサイト運営	40.9	2.29
15	フィックスターズ	ソフトウェア開発	40.7	13.16
16	グレイステクノロジー	マニュアル制作	39.6	5.75
17	イー・ガーディアン	ネットの投稿監視	39.5	11.67
18	みらいワークス	プロ人材紹介	38.9	1.28
19	ライトアップ	経営・財務アドバイス	38.1	2.77
20	カナミックネットワーク	介護情報ソフト	38.0	5.44
20	マークライন্ズ	自動車産業ポータル	38.0	7.34
22	アルトナー	技術者派遣	37.3	7.85
23	モバイルファクトリー	スマホゲーム開発	37.1	8.49
23	ジェイホールディングス	不動産、フットサル事業	37.1	0.29
25	ストライク	M&A仲介	36.7	18.86

日本経済新聞社が売上高100億円以下の中堅上場企業「NEXT1000」を対象に、投資の効率を示す投下資本営業利益率 (ROIC) の3年平均を調べたところ、新事業のアイデアをインターネット経由で浸透させる企業が上位に入った。消費者向け事業が目立ち、データ分析などで価値を高めている。首位は漫画アプリ開発のand factoryだった。

調査の概要 直近決算期の売上高が100億円以下の上場企業970社を対象 (TOKYO PRO Market 市場企業、決算期変更、金融除く)。直近4年間のデータが取得できる企業で、投下資本営業利益率 (ROIC) の3年平均の平均が大きい順にランキングした。営業利益を投下資本 (有利子負債と自己資本の合算) で割って算出した。データは2019年12月13日時点

中堅の投下資本営業利益率  
30%以上が50社超  
コト消費、ネットで喚起

中堅の上場企業が資金を効率的に使い、稼ぐ力を高めている。日本経済新聞社が売上高100億円以下の企業「NEXT1000」について、投下資本営業利益率 (ROIC) を調べたところ、過去3年平均で30%以上となった企業は50社を超えた。コト消費を喚起するサイトの運営など、ネットを活用して新市場を開拓する企業が目立つ。(関連記事をNEXT1000面に)